５ラウンドシステムにおける「話すこと」の力を支援するICT活用
（中１～３　５ラウンド）

① 聞く　①話・発　③TV　③タブ　③デジ教

【ここがポイント！】

①　「タブレット・大型TVを使ってトピックを提示」
ラウンドシステムを通して「自分の言葉で事実や意見を伝えることができる力」を育成することを目指している。タブレットや大型テレビを活用し，日常的な話題，社会的な話題など様々なトピックを提示し，目的・場面・状況を明確に設定した中でやり取りを行う。

②　「デジタル教科書を活用したフィードバック」
教科書本文の発音やイントネーションは教師が説明するより，生徒がデジタル教科書の音声を活用し，モデルを真似ることを大切にしている。

③　「録音・録画機能を活用したスピーキングテスト」
生徒はタブレットを活用し，録音・録画したものを保存する。パフォーマンステストとして実施するだけでなく，録音・録画したものを数か月後に生徒自身が確認して，話すことの力の伸びを把握し，学習改善に生かす。

【実践の目標】

日々の授業でICT機能を活用し，与えられた目的・場面・状況を踏まえて，自分の言葉で表現する生徒を育成する。

【実際の場面】

ラウンドシステムの授業では，生徒の「話す」力を育成するため，デジタル教科書のピクチャーカードや本文の読み上げの機能を活用した。スピーキングテストに向けて，日頃から場面を設定した中でのやり取りを大切にした。YouTubeを使用し，人種差別やSDGsなど社会的な話題も取り上げ，やり取りや発表を行った。

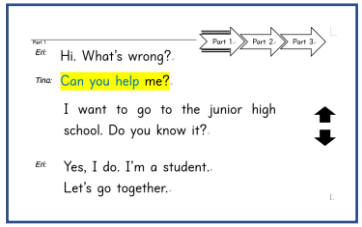
◆教科書をフルに活用
ピクチャーカードを大型テレビで表示し，ストーリーの概要を把握するとともに，ストーリーの内容について，生徒とやり取りを行った。目的・場面・状況をはっきりと設定している教科書を使うことで，その場に応じた表現を使おうとする生徒の姿が見られた。

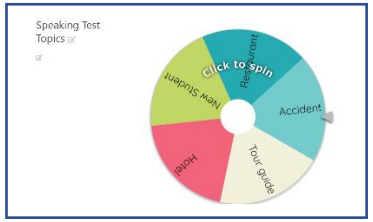
◆デジタル教科書を活用したフィードバック
教科書の音読やリテリングにおいて，デジタル教科書を使ってフィードバックを行った。
音読では，教科書の読み上げ機能を活用し，生徒自らがモデルを真似ようとした。
また，リテリングでは，デジタル教科書の「ドラマ」の登場人物の心情等を読み取り，生徒が自分の言葉でその心情を表現しようとした。

◆場面を設定したスピーキング活動
パフォーマンステストの時だけ，目的・場面・状況を設定するのではなく，日々のスピーキング活動において，レストランでのやり取りなど，具体的な場面を設定した。
生徒が表現する際，教科書で扱われている内容を活用する生徒も多く，インプットした一部をアウトプットしようする生徒もいた。
このような活動を継続することで，最初は30秒しか話すことができなかった生徒が，２分以上やり取りを続けることができるようになった。

◆読んだり聞いたりしたことについて発表
初見の読み物教材やYouTubeで社会的な話題も取り上げ，読んだり聞いたりしたことについて，自分の意見を表現したりする活動を行った。
録音・録画したものは，生徒自身が確認し，フィードバックを重ねることで，学習改善に生かすことができた。

福山市立鞆の浦学園





【成果と課題】

【成果】
○教師が見通しをもったフィードバックを継続したり，生徒がタブレットを使って録音・録画したものを振り返ったりすることで，生徒は「以前より表現の幅を広げることができた」「新しい表現をもっと知りたい」と前向きに取り組むようになった。
○教科書だけでなく，補助教材としてYouTubeで社会的な話題に触れることで，「他にも色々な教材を読んでみたい」と感じる生徒が増えた。

【課題】
○社会的な話題に関することについて，自分の思いを身近な英語を用いて発表することはできるようになってきたが，そのテーマについて相手に質問するなど，やり取りを行うことはまだ十分でない。

話すこと［発表］から話すこと（やり取り）へつなぐ活動（遠隔授業）
（NEW HORIZON English Course 2
Unit 2 Food Travels around the World）

呉市立広南中学校

①話・発　①話・や　②評価　③タブ　④ロイロノート等

【ここがポイント！】

①「発表からやり取りへ発展」
ＡＬＴに発表した「呉紹介」を元に，やり取りへとつなげる。ペアでやり取りをする際には，６つのステップ（①Q&A，②Q&AA，③Q&AAA，④自分のことを伝えて質問，⑤同じ質問を相手にたずねる，⑥１分間トーキング）で，繰り返し練習する。ステップ４，５では，理由をつけて述べたり，話題を広げたり，また，関連性のある質問をしたりするように，スモールステップで指導する。

②「一人１台端末を使った遠隔授業でのやり取り」
Google ミートを使い，他市町の生徒とやり取りをする。画面を共有し，自己紹介やお互いの町を紹介し合ったり，その内容に関する質問をし合ったりする。最後に，自己評価をロイロノートに提出する。（後日，「主体的に学習に取り組む態度」の評価に反映する。）

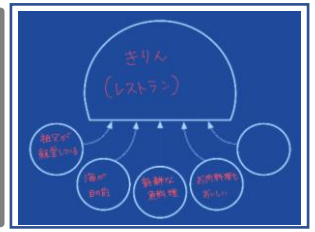
【実践の目標】

ＡＬＴに呉の紹介をしたり，他市町の生徒とお互いの町を紹介し合ったりすることができる。

【実際の場面】

１．呉のおすすめスポットを紹介し合い，自分の発表内容を練り上げる
単元の導入時，ペアで，ＡＬＴが呉に来たら行ってもらいたい場所と，そこでできることを即興で伝え合った。ペアを替え，お互いに紹介し合うことを繰り返し，よりよい発表となるよう，自分の発表に生かせる表現を集めた。

２．メモを作成し，メモを元に発表の練習をする
発表に必要な情報のメモとして，ロイロノートのシンキングツール（くらげチャート）を活用した。この簡単なメモを元に，呉のおすすめスポットの発表練習を行い，さらにペアで紹介し合い，お互いにアドバイスし合った。



３．ＡＬＴに発表する
Keynote を使って発表のスライドを作成し，スライドを見せながら，１人ずつＡＬＴの先生に呉の魅力を紹介した。（紹介の様子を動画に撮り，後日，指導者が評価を行った。）

４．ペアでお互いの発表の内容に関する質問をし合う
ペアの相手の自己紹介や呉紹介を聞いて，内容に関する質問をし合った。ペアの相手を替え，６つのステップで，繰り返しやり取りの練習を行った。

５．遠隔授業に向けて，呉紹介の発表を練り直す（家庭学習）
ＡＬＴに発表した際に撮影した呉紹介の動画を見返し，新しく習った表現を加えて，発表内容を練り直した。

６．遠隔授業
Google ミートを使い，他市町の生徒とペアになり，お互いの自己紹介と地域の紹介を行った。その後，紹介内容に関する質問をし合った。

７．評価を行う
遠隔授業に関する自己評価をロイロノートに提出した。（後日，「主体的に学習に取り組む態度」の評価に反映した。）

【成果と課題】

【成果】
○原稿をあらかじめ準備するのではなく，シンキングツールをメモとして使うことで，メモを元に自分が伝えたいことを伝えられるようになった。
○発表からやり取りへつなげたことにより，発表の内容を踏まえて相手に質問することができ，やり取りで目指している関連性のある質問をすることができるようになった。
○遠隔授業で他市町の生徒と触れ合う機会を設定したことで，お互いの町の良さを伝え合うことができた。何より生徒全員が，英語を使ったコミュニケーションに意欲的に取り組むことができた。

【課題】
○やり取りをする上でリアクションがワンパターンになるため，ＡＬＴと話す機会を増やしたり，普段の授業で他の表現を練習したりして，自然な表現の幅を広げる必要がある。

Chromebook を活用したプレゼンテーション発表までの活動
（NEW HORIZON English Course 2　Unit 4　Homestay in the United States）

竹原市立賀茂川中学校

①話・発　①統合　②協・発　②評価　③タブ

【ここがポイント！】

①「発表機会・練習の充実と工夫」
　スライドを作成し，スピーチをクラス全体の前で行う。事前に個人で発表練習をし，動画を録画し，自己評価を行う。その後，ペアでお互いのスピーチ動画を視聴し合い，評価やアドバイスを行う。グループで発表を行い，再度動画を録画し直し，自分で自身のフィードバックをする。話すスピードや発音の確認，表情やアイコンタクトを意識して行うことができる。

②「スプレッドシートを使った自己評価」
　クラスで共有した Google スプレッドシートに自己評価を入力し，授業についての振り返りを行う。自己評価と指導者からのコメントをお互いに読み，学びを共有することができる。

【実践の目標】

　新しく来られた ALT が日本（竹原）に住むのに役立つアドバイスを考え，分かりやすく伝えることができる。

【実際の場面】

1．Google スライドと発表原稿を作成する
　自分が相手に伝えたい内容（アドバイス）を考えた。伝えたい内容について辞書や Google 翻訳を使って英文を考えた。

2．スピーチ文の練習を行う（個人練習）
　各自作成した英文を発音やスピードに気をつけながら Speechnotes を使って練習した。発音の間違いやリズムなどを修正していった。

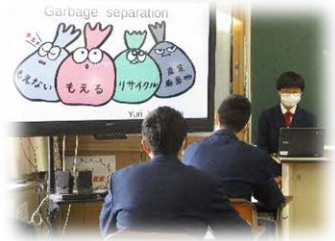
3．個人やペア学習で発表の練習と評価をする（録画）
　練習後，スピーチの録画を行い，客観的に評価した。ペアで互いの録画を視聴し評価とアドバイスを行った。

4．グループ練習を行う
　グループごとにスライドを見せながらスピーチ練習を行なった。お互いに良かったところや，直した方がいいところなどを評価し合った。

5．ALT とクラスの仲間の前でプレゼンテーション発表する
　一人ずつ電子黒板に自分が作成したスライドを映し，スピーチを行った。ALT，JTE，生徒は全員のプレゼンテーションについて評価し，評価表に記入した。

6．自己評価を入力する
　評価表に書かれた自分への評価を読んだ後 Google スプレッドシートに自己評価を入力し全体で共有した。

7．動画提出と評価を行う
　Classroom に動画の録画とスライドを提出した。動画を指導者が評価し，コメントを書き，生徒にフィードバックした。



【成果と課題】

【成果】
○スピーチ発表までに，個人やペア，グループで「練習」「交流」「評価」を行うことができ，アウトプットする活動を多く取り入れることができた。
○自分の動画を何度も見て振り返りができるので，生徒が客観的に評価し，よりよい姿を目指して積極的に練習に取り組むことができた。
○英語で話すことのハードルが下がった生徒が増え，自分の考えや気持ちを英語で話そうとする意識が高くなった。

【課題】
○自分の考えや気持ち等を伝え合うことができる活動の時間をもっと増やす必要がある。
○質の向上を図るため，ICT を効果的に活用し，ペア活動やグループ学習で英語で話す（やり取り）の時間を増やしていく必要がある。

ディクテーション機能を活用した「話すこと［発表］」への取組
（NEW HORIZON　English　Course 1 Unit6　A Speech About My Brother）

大竹市立小方中学校

①話・発　②協・発　③タブ

【ここがポイント！】

①「ディクテーション機能の活用の工夫」
　これまでは，発表の練習として個人またはペアで発音練習や読み練習を行っていた。しかし，それだけでは，誤った単語の発音を正しいと思い込み，結果，それらを覚えてしまうことがある。ディクテーション機能により，自分の発話した単語が視覚化されることによって，生徒自身で音声矯正ができるメリットがある。

②「発表の練習の工夫」
　本機能を使用する際，マイクを通して音声をコンピューターに吹き込む。マイクはマスク越しでは音声をとりにくいため，はっきりと口を大きく開けて話す様に指導を行う。「私の好きな芸能人について発表する」ことを目的とした ALT とのインタビューテストの評価では，どの生徒も音声（発音）が聞き取りやすかったとの評価を得ることができ，個人練習の成果が表れていた。

【実践の目標】

　新しく来た ALT に自分のことを知ってもらうために，自分の身近な人や好きな芸能人についてわかりやすく話すことができる。

【実際の場面】

1．ディクテーション機能を用いて発表の練習を行う
　マイクロソフトワード（365）に搭載されているディクテーション機能を活用し，原稿をタブレットに吹き込む。

2．視覚化された文字を確認する
　生徒自身が吹き込んだ音声が視覚化（文字化）され，正しい発音になっていなければ異なる単語が表示されるため，生徒自身がその文字を確認することができる。

3．各自で再度，発表の練習を行う
　２の活動で誤って表示された箇所の発音を再度練習し，正しい発音になるまで練習を行った。

4．ペアで発表を行う
　ペアを変えながら，好きな芸能人について発表を行った。

5．一人目のモデルの発表を見て発表の改善を行う
　話し方や声量などが良い生徒を一名指名し，モデル発表を行わせた。その発表を見せ，発表のポイントを再確認させ，再び異なるペアで発表を行った。

6．二人目のモデルの発表を見て発表の改善を行う
　２回目は，リアクションや即興的な表現などが良い生徒を一名指名し，モデル発表を行った。その発表を見せ，発表のポイントを再確認させ，再び異なるペアで発表を行った。

7．振り返りを行う
　Google フォームでアンケートを作成し，授業に関する振り返りシートへの回答を行った。

【成果と課題】

【成果】
○ディクテーション機能を用いることで，生徒は生き生きと発音練習に取り組むことができ，教師側も個々に対しきめ細やかな指導をすることができた。
○カメラ機能を使用することで，お互いのプレゼンを撮影し，個人評価に基づく修正を行うことができた。

【課題】
○今回初めてディクテーション機能を使用した。生徒はヘッドセットを使うといういつもと違う発音練習でとても意欲的に学習に向かっていた。しかし，ヘッドセットを使用しても他の生徒の音声を拾っていたり，機器の不調で音声が認識されていなかったりなど，教科面ではなく，機器の操作面での課題が見られた。回数を重ね，スムーズに操作ができるようにしていきたい。

タブレットを活用したやり取りとプレゼンテーション
（NEW CROWN English Series3
Project1　日本限定アイスクリームを提案しよう）

①話・や　②個・表　②協・発　③タブ　③TV

【ここがポイント！】

①　「一人１台タブレット端末のフル活用」
　帯学習で，自分の撮影した写真についてのクイズを考えて出題し，ペアでのやりとりをする。また，プレゼンテーションのための情報収集，辞書活用，スライド作成，練習中や本番での動画撮影など，授業中のあらゆる場面で生徒が端末を活用する。

②　「大型テレビを用いた導入と発表，共有」
　ALT からのビデオレターを観せて生徒に相手意識をもたせる導入を行う。また，教師のモデルスピーチでのスライドや，生徒の作成中のスライドを画面に表示し，アイデアを全体で共有する。

【実践の目標】

日本限定アイスクリームを ALT に分かりやすく提案することができる。

【実際の場面】

1．端末の写真を見せながらクイズを出題し，ペアでやり取りをする（帯学習）
　自分が撮影した写真の一部分を見せ，” This is my friend who ～. Who is s/he?” というクイズを出題し，１分間ペアとやり取りを続けた。

2．前任の ALT からのビデオレターを観る
　審査員を頼んでいる前任の ALT からの「日本や河内中の生徒のみんなが恋しいことや，日本に戻ったら何を食べたいか」という内容のビデオレターを観ることで，相手意識をもって課題に取り組ませた。

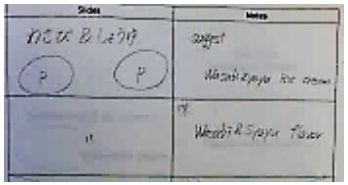
3．スライドと発表用のメモを作成する
　教師のモデルスピーチとメモを参考に，Google クラスルームに提示されたスライドを作成しながら発表のためのメモを作成した。Google スライドを使うことで，教師も生徒も，アイデアを共有し，進捗状況を確認することができた。

4．発表の練習をする
　グループ内で練習を動画で撮影し，アドバイスをし合った。その後動画を見返し，アドバイスも踏まえて改善をした。発表後に想定される質問や，その応答の仕方についても考えることで，さらに発表内容の順番や，まとまりよく伝えられるように工夫した。

5．発表をする
　スライドを提示しながら発表をした。メモをずっと見ている生徒もいれば，自分たちが作ったスライドをヒントに英文を言おうと努力する生徒もいた。発表後は生徒同士での質疑応答を行った。

6．動画を見ながら振り返りをする
　Google スライドをクラスルームで共有し，発表の際のスライド操作は教員の端末を使い，生徒用の端末は発表の様子を録画するために使用した。リハーサルと本番の動画を見比べながら，展開や構成，内容を振り返り，次回への課題を記述した。また，発表した英文や，その場で話したかった英文を書き起こした。

東広島市立河内中学校



（生徒の振り返りより）
　動画を観て感じたことは，あまり声が出ていなかったところです。そこを残り少ない発表で改善していけるようにしたいです。練習のときはメモもとっていない状態で，うまく伝えられなかったけど，本番は言いたいことをまとまりよく伝えられたと思いました。

【成果と課題】

【成果】
○発表をする際に，いつも事前に作成した原稿を覚えて読むだけということになりがちであった。今回は，グループで何度も練習を重ね，撮影した動画を見返して確認し，アドバイスし合って発表内容を改善していくことで，メモとスライドを頼りに即興的に発表をすることができた。また，帯活動でのやり取りや発表後の質疑応答でも，生徒が積極的に英語を使う姿が見られた。

【課題】
○質疑応答の際，質問をする生徒が固定化したので，グループ内での練習の際にも質疑応答を行ったり，Google ジャムボード等を用いて質問内容の共有等を行ったりしておけば，より多くの生徒が質問をすることができたと考えられる。また，グループでの課題設定であったので，個人の評価につながる課題設定の工夫も必要であった。相手の発表を内容に注意して聞き，内容の構成の優れた点を，自分の発表にも取り入れることで質を向上させたい。

日本文化紹介のパンフレットスライド制作
―プロジェクトの設定から一連の活動におけるICTの活用―
（New Horizon　English Course３　Stage Activity　２　Discover Japan）

① 統合　②個・表　②協・制　③タブ　④ Google スライド，ジャムボードなど

【ここがポイント！】

◎ICT を活用したプロジェクト学習で英語力を伸ばす

①プロジェクトの目的・場面・状況を具体的に設定する

ALT の姉でアメリカの中学校で社会を教えている先生のクラスとの交流という設定で，パンフレット作成の目的をはっきりさせる。アメリカの中学生が書いた実際の英文を読み取り，理解を深めることから意欲を高める。常にアメリカの中学生の英文を読むことで，相手との距離が近くなる。その明確な目的・場面・状況と意欲で，一連の言語活動にオーセンティックな意味をもたせて進めることができるため，作文の内容をより良いものにするために，協力して表現の工夫ができる。

②やり取りを通して，書く表現力を高める

まとまりのある文章を書く力を伸ばすために，チームでのやり取りを通して表現力を高める。自分だけでは気付かない改善点に気付くために，ペアでのやり取りと，付箋で伝えるやり取りからアプローチする。文章表記，内容構成，より伝わりやすい表現の向上を協働学習でめざす。

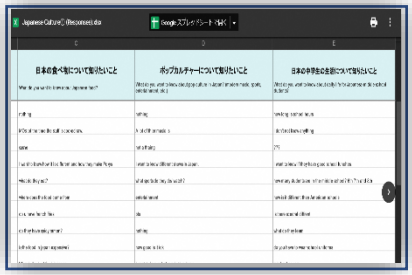
【実践の目標】

日本文化の紹介をパンフレット形式で紹介をすることができる。ペアでのやり取りの中で表現を練り上げ，書く力を伸ばすことができる。

【実際の場面】

1．導入・設定

アメリカの中学生のニーズを知るために，フォームを使ったアンケートをお願いした。アンケート結果をスプレッドシートで共有して内容を検証した。アメリカの中学生の生の意見を興味深く読み取った。また，交流している ALT の姉（社会の先生）からのメッセージ動画（クラスルームにアップして繰り返し視聴可）の内容も踏まえて，パンフレットに載せたいトピックスを考えた。ジャムボード上でマッピングして，ジャンル分けした。



2．サインアップ

作成したいジャンルのトピックスにサインアップして，自分の担当ページを決定した。（Google ジャムボード）

3．原稿の下書き（個）

モデルを参考に下書きの原稿を書いた。後置修飾の構造を取り入れることと独自性のあるメッセージを文章に含めることを条件とした。

4．やり取り（協働）

ジャムボードに原稿をアップして，内容について英語でやり取りした。（研究授業）

ペアでのやり取りや，付箋で伝えるやり取りを通して気付いた訂正案を基に，原稿（清書）を完成させた。クラスを越えてジャンル別になっているスライドの共同編集を行った。（表紙の作成，内容の校正，全体の構成）繰り返し全体のバランスを考えて，互いに加除訂正を協力して行った。

5．振り返り

このプロジェクトを振り返って，それぞれの課題と成果をスプレッドシートで共有した。また，プロジェクト報告書を作成して，今後の自己の課題を見付けた。また，パンフレットの感想を ALT の姉の学校からもらって達成感につなげた。

【成果と課題】

【成果】

○プロジェクトの目的・場面・状況を具体的に設定したことで，興味をもって意欲的に取り組むことができた。アメリカの中学生のアンケート結果について，活発に意見交換するなど，相手意識を明確にもつことでプロジェクトの意義が高まった。

○相手意識をもって書くことで，条件とした「①後置修飾」を使う意味を理解した。また，「②独自性のあるメッセージ」を楽しんで工夫する様子があった。

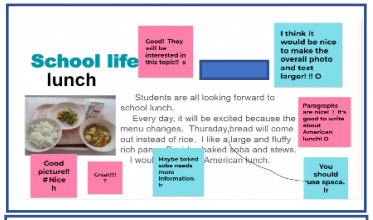
○ジャムボードとスライドを使った活動を繰り返してきたので，スムーズに協働学習を進めることができた。付箋のアドバイスが感想レベルから具体的な提案へレベルアップした。共同編集では，表紙のアニメーションの工夫や，英文の修正を積極的に行うなど，得意分野で互いにリードし合うために ICT を効果的に活用できた。

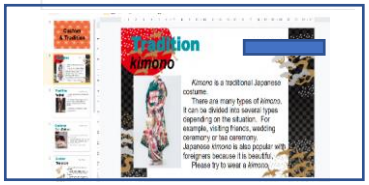
【課題】

○翻訳機能を使いながらも，表現力を確実に上達させる教え方を工夫する必要がある。

○アメリカの冬休み前の授業に間に合わせてパンフレットを送ったが，PDF をクラウド上で共有する操作を間違え，最後の共有ができなかった。機能を適切に使う技能は，今後の課題である。

廿日市市立阿品台中学校





意見交流を円滑にする Writing 及び Google ミートを活用した他校との遠隔授業

（Here We Go! English Course1 Unit7 New Year Holidays in Japan）

江田島市立三高中学校

①書く　①話・や　②個・学　②協・遠　②評価　③タブ

④Google ミート

【ここがポイント！】

①「アナログとデジタルの活用」

生徒自身の自己紹介を撮影し，その動画を見て英文を書き取る。書き取った英文を見直し，修正する表現を，自分自身で見付け出す。発した英語を自分で聞き直すことにより，正しい英文になっているかを考えることで，自主的な課題解決を行うことができる。

②「Google ミートを使ったやり取り」

小規模校のために，会話の相手が定着してしまうことに対し，Google ミートを活用することで，他校生徒と会話をし，緊張感の中，即興で会話する力を鍛えることができる。また，多様な価値観や意見に触れることで思考を広げることができる。即興での対話が苦手な生徒の中には，チャット機能を利用する等，会話を続けようとする意欲的な態度が見られる。

【実践の目標】

英語で他校の生徒と互いに自己紹介をし合い，相手に英語で質問したり，相手からの質問に対して英語で答えたりすることができる。

【実際の場面】

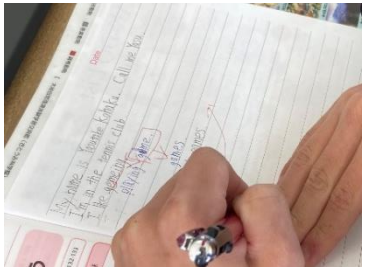
1．即興で考えた自己紹介を録画し，英作文を書く

はじめは，すぐに英作文に取りかからず，自己紹介文を頭の中で考えた。考えた内容を口頭で発表し，タブレットに録画した。

録画した動画を観て，生徒自身が発表したままの文章をノートに書き，自己紹介文を書いた。

2．英語表現を見直す

ノートに書いた英文を修正した。その後，教師による添削を再度行い，正しい表現で書かれた紹介文に清書した。



3．Google ミートで他校の生徒と交流する

清書した紹介文を参考に，グループ分けした Google ミート内で交流を行った。英語で自己紹介をした後，生徒同士で質問をしたり，答えたりした。即興で会話をする中でも，前時で修正した英語表現を意識して会話をし，正しい英語で会話ができるように心がけた。

4．自己評価と振り返りをする

交流終了後に，生徒自身ができたこと，課題だったことを記入し，スプレッドシートで共有した。次回の交流に向けて，共有した情報を基に改善をしていく。

【成果と課題】

【成果】

○「書くこと」が苦手な生徒が，自己修正を行うことで，英語表現の課題を発見し，課題解決に向けて，自主学習ノートで表現したり，授業で提示した文法が記載された Google スライドを見直してワークを解いたりする等家庭学習に取り組もうとする意欲が高まった。

○「話すこと」の苦手な生徒にとっては，英文を用いて質問する，チャットで質問する等，書く機能を活用することで，意欲的に取り組もうとする態度を養うことができた。

【課題】

○個別支援が必要な生徒は，即興で答えられる課題を設定していなかったため，返答にとまどう場面があった。事前に ICT の使い方を含む個別支援の在り方を工夫する必要があった。

○ルーブリックを設定する等，評価基準を細かく提示できていなかったため，生徒個人が目標設定をすることが難しく，「書く」ことについての課題を個別で見付けにくかった。

自作の英作文とオンラインボイスレコーダーを活用した学習評価の工夫！
（Sunshine English course 2 Program 6 Live Life in True Harmony）

府中町立府中緑ヶ丘中学校

①書く　①話・発　②個・発　②評価　③タブ

【ここがポイント！】

①「学習用パソコン（一人１台端末）を活用した発表練習と発表」
○生徒自身が作成した「自分のお気に入りのもの」についての英作文を発表する場面を設定する。
○生徒自身が「作成した英作文を発表してみると，どんな風に聞こえるのだろう？」「実際にどのように英語を話しているのだろう？」などと考えながら，何度も繰り返し練習を行うことができるように，オンラインボイスレコーダーを用いて学習を行う。生徒自身が自分で聞き直すことで音声面での質を高めることができる。
○質が高まった発表を，生徒に本番用としてクラスルームに提出させる。
②「オンラインボイスレコーダーを用いた学習評価」
生徒が何度も繰り返し練習をして，本番用として録音した音声をクラスルームに提出するので，指導者は繰り返し音声を聞くことが可能である。指導者もじっくりと生徒の学習の成果を評価することができる。

【実践の目標】

繰り返し練習することで音声面での質を高める！

【実際の場面】

１．例文の読み取り
「My Favorite Things」というタイトルの基で作文するために，例文を読み取り，英作文する際の参考にした。自分自身のお気に入りのものを英語で言語化するためのイメージづくりを行った。

２．英作文のための情報収集
「My Favorite Things」を紹介するために必要な情報を，学習者用パソコン（タブレット）を用いて収集し，自分自身のお気に入りのものを，英語で言語化するための情報をワクワクしながら収集した。

３．英作文
収集した情報や例文の構成を基に，「My Favorite Things」について英作文をした。

４．発表練習
完成し添削された原稿を基に，生徒は繰り返し発表練習を行った。その際，オンラインボイスレコーダーを用いて，自分の発表を何度も録音し聞き直すことで，音声面での質を高めた。オンラインボイスレコーダーを活用し，生徒自身が主体的に自らの言語活動について，どのような点を修正し，どのような英語での言語表現を行えばよいのかを何度も検討できるように，可能な限り練習時間を確保した。

５．発表・提出
繰り返し練習した成果として，生徒自身が録音したものの中で納得がいった音声データをクラスルームに提出させた。

６．学習評価
生徒がクラスルームに提出させた音声データを，指導者が評価を行い，生徒へフィードバックを行った。指導者による生徒へのフィードバックを基に，生徒が自らの英語による言語表現や言語材料について振り返り，今後の音声面での質の向上を図ることができるようにした。

【成果と課題】

【成果】
○生徒は１回の発表で評価されるわけではなく，時間の許す限り，自分の納得いく発表の練習ができるので，必然的に繰り返して質にこだわった練習をすることができた。また，人前で発表することが苦手な生徒も安心して取り組むことができた。
○指導者も，即時的に評価するのではなく，何度も繰り返し生徒の音声データを聞くことができるので，比較・検討し評価を熟考できた。
【課題】
○録音という形をとったため，音声面のみの評価となり，アイコンタクトやジェスチャー等を含めた総合的な評価とならなかった。動画を用いた学習評価も考えていく必要がある。

タブレットを活用した学校紹介ビデオ作りと学習評価

（SUNSHINE English Course 1　Program 4　Let’s Enjoy Japanese Culture.）

①話・発　②個・表　②協・整　②評価　③タブ

【ここがポイント！】

「学校施設の紹介順を生徒がグループで決める」

Google ジャムボードを用いて，学校の施設をどの順番で紹介するのが効果的なのか考え，英語で協議し，整理していく。自分の考えを伝える表現（I think that… / My idea is…）や同意を得る表現（Is it OK? / Do you agree?）などをフレーズとして導入し，協働して情報を整理する際に用いることができるようにする。また，順序を表す語句（First, / Second, / The next is …）等も用いて，順序よく紹介できるようにする。このような表現を用い，タブレットを活用することによって，文字情報が口頭による議論を助け，言語活動を促進することができる。

【実践の目標】

相手に自分の学校のことが伝わるように，紹介文の内容を整理し，簡単な語句や文を用いて，相手に分かりやすい流れで紹介することができる。

【実際の場面】

1．単元の見通しを持つ

「西中バーチャルツアー」と称して学校案内を行うことや，その目的，相手の要求などのミッションの内容を，ビデオメッセージから理解させた。

2．身の回りにあるものを紹介する

指示代名詞（this/that）がどのような場面で用いられているか，教科書を用いて理解させた。

3．バーチャルツアーを計画し，作成する

Google ジャムボードを用いて，学校の施設をどの順番で紹介するのがよいか協議し，情報を整理させた。

自分の考えを伝える表現や同意を得る表現などは，サイトトランスレーションの手法を用いて帯で身に付けさせた。その中から生徒が必要な表現を用いて協議している様子が多く見られた。

4．事実や内容を整理し，相手にとって分かりやすい流れになるように推敲する

敢えてつながりの悪いバーチャルツアー例を提示し，場面ごとにぶつ切りになってしまっていてつながりがないことに気付かせ，聴き手にとって分かりやすい表現になるように推敲させていった。

5．バーチャルツアーを完成する

オンラインボイスレコーダーを用いて，動画にアフレコし，バーチャルツアーを完成させた。

6．相互評価を行う

お互いのバーチャルツアーを視聴し，相互評価を行った。

【成果と課題】

【成果】

○協働で情報を整理する際，タブレットを用いることで，口頭の情報だけではなく，文字情報も用いながら整理することができ，より協議しやすく，多くの発話を促していた。

○アフレコにすることによって，繰り返し録音することができ，生徒自身が自分の発話に意識を向け，改善点を見つけ，修正することができていた。

【課題】

○バーチャルツアー用の動画を作成することや音声と映像を結び付けることに少し時間がかかるが，映像に直接音声をつけるソフトウェア等を活用するとこの時間も短縮することができるかもしれない。

海田町立海田西中学校

スライド作成とプレゼンテーション練習，発表の工夫
（Sunshine English Course 2 Our Project 5 こんな人になりたい）

①話・発　①統合　②個・発　②評価　③タブ　④Google スライド

【ここがポイント！】

①「Google スライドの活用の工夫」
ALT と JTE がなりたい人物について生徒に紹介し，生徒も自分たちがなりたい人物を決める。次に，タブレットを使ってその人物の特徴や名言などを調べる。調べたことをもとに英文を作成する。最後に，個人でスライドに画像を張り付けたり，文字を打ち込んだりしてプレゼンテーション資料を作成する。

②「練習・発表の工夫」
個人で作成したプレゼンテーションの資料をタブレットで見せながらペアで練習をし，感想（良かった点や改善点など）を言い合う。発表の際には，プレゼンテーションの資料を自分で操作しながら，電子黒板を使って発表を行う。

【実践の目標】

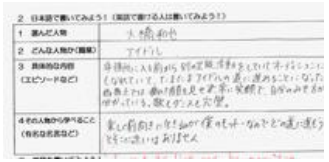
○自分のなりたい人物の英文とプレゼンテーション資料を作成し，発表することができる。
○プレゼンテーション資料を効果的に見せながら，聞き手の理解を確認しつつ内容を整理して，自分のなりたい人物を分かりやすく伝えることができる。

【実際の場面】

1．自分のなりたい人物を決める
ALT と JTE からなりたい人物についての紹介を聞いた後，教科書教材の「エジソン」について調べて作成したポスターを読み，自分がなりたい人物を決めた。

2．評価基準を生徒に示す
「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の観点で，評価基準を事前に示した。

3．インターネットでなりたい人物の情報を収集する
なりたい人の特徴や名言などをインターネットで情報収集した。



4．３で調べた情報を整理する
３を基に「具体的な内容（エピソードなど）」と「その人物から学べること（名言など）」をまとめた。

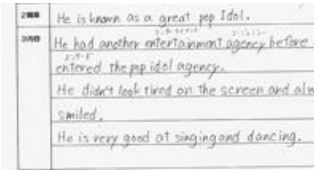
5．プレゼンテーションの英文を作成する
４で作成した情報を基に，英文を作成した。分からない単語や発音は辞書や翻訳ソフトで調べた。

6．プレゼンテーションの画像等を張り付ける
スライドに画像を張り付けたり，文字を打ち込んだりしてプレゼンテーション資料を作成した。

7．プレゼンテーションの練習をする
タブレットを操作しながら，個人・ペアで練習を行った。ペアの練習では，お互いに感想（良かった点や改善点など）を言い合った。

8．プレゼンテーションを行い，相互評価を行う
プレゼンテーション資料を操作しながら，電子黒板を使って，ALT と生徒の前で発表した。聞いている生徒は，発表者の評価と感想を書き，良かった生徒上位３名を決めた。最後に「自分が頑張ったことと次に頑張ること」を記入させた。ALT と JTE は，「思考・判断・表現力」と「主体的に学習に取り組む態度」の観点で評価をした。

熊野町立熊野東中学校



【成果と課題】

【成果】
○タブレットを用いることで，自分のなりたい人物の特徴や名言，英語の単語や表現・発音などを自主的に調べることができた。
○生徒がタブレットの操作に慣れてきたため，工夫をしてプレゼンテーション資料を作成することができ，より良いプレゼンテーションをしたいという意欲が高まった。
○生徒が英文を打ち込む中で，文法指導をしたり発音の指導をしたりすることができた。
○プレゼンテーションの資料に写真や文字があるため，聞いている生徒も内容が理解できた。

【課題】
○個人・ペアで練習をすることができたが，十分に英文添削や発音指導に時間を費やすことができなかった。
○生徒のプレゼンテーション資料の作成に時間がかかったため，紹介文を覚えて発表できる生徒が少なかった。（打ち込んだ英文を読む生徒が多く見られた。）
○相手意識の評価規準が曖昧だったため，評価がぶれてしまった。

タブレットを活用した日本紹介までの一連の活動と学習評価

（SUNSHINE　ENGLISH　COURSE３　PROGRAM４
「Sign Languages, Not Just Gestures!」）

坂町立坂中学校

①話・発　②個・表　②評価　③タブ　③TV　④ミライシード

【ここがポイント！】

①「ミライシード(オクリンク)を活用してペアに紹介動画を送信・相互評価 」
紹介文動画を作成するための情報や写真などを集め，ミライシードを活用して，紹介文動画を作成する。何度も練習した紹介文動画を，ペアに送り合う。ペアで送り合った動画を相互評価することで，より良い紹介動画の作成を目指すことができる。

②「ミライシードと Google フォームやスプレッドシートの活用」
ミライシードの動画機能を効果的に活用し，何度も練習を繰り返すことで言語活動の量が増える。単元末には，Google フォームを活用し，振り返りを行い，スプレッドシートを活用することで，生徒の振り返りの共有を図ることができる。

【実践の目標】

ＡＬＴに，紹介したい日本のものについて，そのよさや楽しさが分かってもらえるように紹介する。

【実際の場面】

1．ALT に紹介したい日本のものについて考え，まとまりのある紹介文を作成する
日本の伝統的なものや，一見しただけでは外国人にとってどんな使われ方をするのか分からない日本のものについて，紹介文とその写真や絵を準備した。

2．ALT からのビデオメッセージを聞く
ALT のビデオメッセージを聞くことで，生徒たちのモチベーションをあげることができた。

3. タブレットを活用して，紹介文動画を作成し，ペアに送る
ミライシードソフトを使うことで，簡単にペアに動画を送ることができた。

4.　紹介文の動画を見て相互評価を行う
前時までに練習した紹介文動画を，さらにより良いものにするために，ペアからアドバイスをもらった。

5.　繰り返し練習を行い，繰り返し撮影する
ペアからのアドバイス等を基に，改善するための練習を行い，動画と原稿を何度も見直しながら繰り返し撮影した。

6．ALT にみてもらう紹介動画を提出する
何度も撮影した後，提出する前に自分で視聴した上で，一番良い紹介動画をミライシードに提出した。

7．評価を行う
生徒は，最初の動画と比べて良くなった点や工夫，改善された理由を振り返りシートに記入した。後日，紹介文動画を ALT に視聴してもらい，ALT と指導者が評価を行った。その評価を生徒にフィードバックし，次の学習活動につなげることができた。

【成果と課題】

【成果】
○生徒たちは，ALT に伝えるという相手意識を十分にもって，紹介文や紹介動画を作成することができるようになった。
○紹介文動画をペアに送り，互いに客観的に評価してもらうことで，よりよい発表を目指すための意欲付けとなった。
○タブレットを活用することで，生徒の英語による言語活動の量が増え，言語活動を充実させることができた。

【課題】
○生徒一人一人が言語活動の質の向上を図るために，さらに細かなルーブリックを作成していく必要がある。
○生徒一人一人に対して，正確な発音やイントネーション等の知識・技能を身に付ける学習活動を行う必要がある。

カメラと Google フォームを活用したスピーキングの評価
（ONE WORLD English Course 2 Project 1 あなたの夢を語ろう）

大崎上島町立大崎上島中学校

①話・発　①統合　②評価　③タブ　④Google フォーム

【ここがポイント！】

①「タブレットのカメラを活用したスピーキングの評価」
　パフォーマンステストの際に，タブレットのカメラで生徒自身にスピーチの様子を撮影させ，それを評価に使用する。生徒は，より良いものを提出するために，カメラで自分のスピーチの様子を何度も撮影し，繰り返し動画を見て，個々で課題を見付け，練習を繰り返す。

②「Google フォームの活用」
　動画を提出する際に，Google フォームを使用する。生徒はフォームに動画を添付し，アンケートにも答える。アンケートは授業内で生徒と共有し，振り返りへとつなげる。

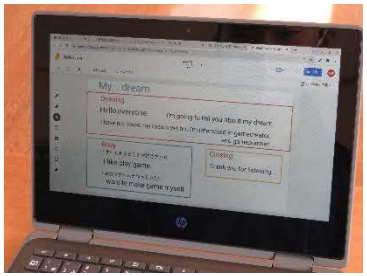
【実践の目標】

　自分の夢を語るために，自分の考えや経験を整理し，聞き手に分かりやすく，まとまりのある内容でスピーチをすることができる。

【実際の場面】

1．自分の夢について考える
　ALT のモデルスピーチを聞き，聞き手に分かりやすいスピーチをするために必要な表現や技法について考えた。その後，ワークシートやジャムボートを活用し，自分の将来の夢や自分が興味関心のあることについてアイディアを書き出した。生徒たちは思考を整理することができた。

2．スピーチ原稿を推敲する
　将来の夢について書き出したアイディアを基に，スピーチ原稿を作成した。その際，辞書だけでなくタブレットでも表現を調べながら，自分が伝えたいことをワークシートに書き出していった。
　その後，グループでそれぞれの原稿を読み合い，参考になる表現や間違いなどの気付きを付箋に書き貼り付けた。
　グループ協議の後，自分の原稿が聞き手に分かりやすいものになるように，自分のワークシートに貼られた付箋を基に推敲を重ねた。



3．グループで発表する
　完成したスピーチ原稿を基に，グループ内で発表をした。その後，発表について相互評価を行った。

4．パフォーマンステストを行う
　タブレットのカメラで自分のスピーチの様子を動画で撮影し，グーグルフォームで提出した。また，本単元の学習に関するアンケートにも答えた。回答については，授業内で共有した。

【成果と課題】

【成果】
○カメラ機能を使って評価を行うことで，評価するための時間短縮につながり，生徒の練習時間を十分に確保することができた。
○撮影した動画を生徒自身が振り返りに活用することで，生徒自身が自分の変容に気付くことができるようになった。

【課題】
○生徒自身が活動の目的を理解し，自らの学習を振り返り，自分の変容に気付き，成長につなげていくために，明確なルーブリックを作成することが大切であると感じた。

Google ジャムボードを活用したプレゼンテーション
（NEW HORIZON English Course 2　Let’s Talk③ 電車の乗りかえ　-道案内-）

①話・発　②一斉　②個・表　③タブ　③TV　④Google ジャムボード　④Google ドキュメント

【ここがポイント！】

①「Google ジャムボードの活用」
　グループで１つのプレゼンテーション資料を作成する際に，各自がページをそれぞれ担当して作成していく。そして完成時は１つのスライドに仕上げる。作成過程では，他の作成中のページを見て流れを確認したり，Google ジャムボードに発表原稿のメモを貼ったりするなどして準備をする。

②「Google ドキュメントの活用」
　資料の画像を添付して各生徒の端末に送信する。それぞれが編集・コピーをするなどして，プレゼンテーション作成に活用する。

【実践の目標】

　Google ジャムボードを用いて，ALT に自分達が紹介したい広島の名所を，メンバーの意見やアドバイスを取り入れて紹介するボードを作成することで，相手に分かりやすく伝える表現力を育成することができる。

【実際の場面】

1．広島の観光紹介場所を決定する
　ALT が実際に興味のある，または興味を持ちそうな観光場所を各グループで１つずつ担当した。ALT の自己紹介から，趣味等を考慮して各グループで紹介内容を考えた。ALT の居住地の最寄り駅からスタートして，目的地付近の駅で下車をして観光をする，という設定とした。そして観光場所の紹介やお勧め情報等を伝える，という趣旨とした。

2．出発駅と到着駅の経路を確認する
　ドキュメントに路線図を添付して，各グループで共有して参照・編集ができるようにして生徒の端末へ送信した。生徒は鉄道利用の説明ができるように準備した。

3．Google ジャムボードに画像を用意する
　各グループで紹介する場所の画像を添付した。ALT がより興味・関心を持つように考えてレイアウトを工夫した。

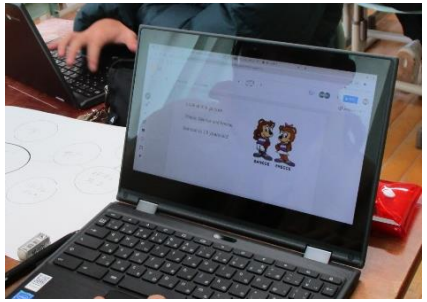
4．Google ジャムボードにメモする
　英文を事前に用意して読むのではなく，メモを見て話すプレゼンテーションにした。その際，各ページを説明する時のメモを必要なだけ用意した。

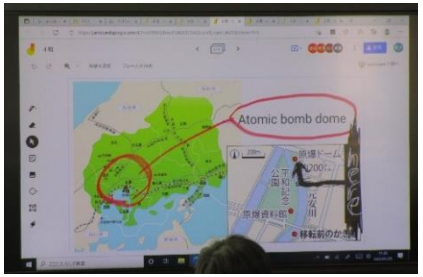
5．プレゼンテーションの練習をする
　各自で作成したページを合わせて１つのスライドに仕上げて，プレゼンテーションの練習をした。

6．プレゼンテーションをする
　ALT に分かりやすく，興味関心を持ってもらえるようにプレゼンテーションを行った。

7．評価を行う
　ALT がその場で簡単にコメントし，詳しくは後日，ALT が記入したフィードバックシートを各グループに配布した。指導者は撮影した動画を見て後日評価を行った。

安芸高田市立八千代中学校





【成果と課題】

【成果】
○Google ジャムボードにメモしたページを共有することにより，多くの意見やアイデアを他者と交流しやすくなった。また，実際に発表する際に活用できる様々な英語表現を，生徒は他者から獲得することができた。
○英語の学習に苦手意識を持つ生徒が，興味を持って取り組むことができた。

【課題】
○ICT の活用時は時間の確保が必要である。単元計画の時数を注意して設定する必要がある。
○小さなトラブルが起こった時の対応に困ることがあるので，今後も研修を進めていきたい。

タブレットを活用したパフォーマンス課題までの一連の活動と学習評価
(NEW HORIZON English Course3　Stage Activity2 Discover Japan)

安芸太田町立安芸太田中学校

①話・発　①統合　②個・学　②個・表　③タブ

【ここがポイント！】

「タブレット（録画機能）の効果的な利用」
相手意識を持って録画機能を用いることで，伝えるべきポイントを意識した上で，個々の生徒が納得するまで自己調整をしながらプレゼンテーション活動に取り組むことができる。

【実践の目標】

オーストラリアの姉妹校の生徒に，紹介したい日本文化についてビデオメッセージを送ることができる。

【実際の場面】

1．マッピング
小グループで海外の人に紹介したい日本の魅力は何（どこ）かアイデアを出し合った後全体で共有し，それを聞いて個々に自分が紹介したい日本文化についてポイントを絞るためにマッピングをした。

2．作文活動
これまでに学習した文型を用いて，個別に自分が決めた伝えたい内容について作文し，写真などを準備した。

3．英文の推敲と修正
小グループで互いに書いた英文の内容が伝わるか読み合い，アドバイスをした。アドバイスを受けて，詳しい説明を付け加えたり，話の流れを修正した。

4．プレゼンテーションの練習
ALT の意見なども参考にして，個々で発音や話す順番，写真の見せ方など工夫しながら練習をした。タブレットを用いて録画しながら修正した。

5．プレゼンテーションの録画
一人一人がそれぞれのタブレットを用いて自分のプレゼンテーションを録画した。また，録画したものをチェックし，納得がいくまで何度も撮り直した。

6．動画の提出と評価
生徒が自分でいちばんパフォーマンスがよかったと思う動画を提出。動画については，指導者が評価を行った。

7．パフォーマンステスト
後日，ALT によるインタビューテストを行った。その会話の様子を録画し，指導者が評価した。

【成果と課題】

【成果】
○録画機能を使用することで，生徒が自身の学びを振り返り，質の向上を求めて自己調整を図る姿が多く見られた。
○自分なりの考えを持ち，相手意識を持たせてそれを表現させることができた。
【課題】
○生徒が動画を時間内に修正，提出できるように支援する必要がある。
○事後の課題として，海外とのやり取りにおいては，セキュリティの関係で直接メール等で動画を送ることができず，Web 上に限定公開という形で動画をあげるしかなかった。また，相手からの感想等の動画についても同様で，生徒が簡単に視聴することが難しかった。生徒へのフィードバックをするためにも，システム上の改善が必要だと感じた。

一人一台端末を活用したやり取りの指導と評価
～ My favorite things ～
（NEW HORIZON　English Course 1 My Favorite Event This Year）

①話・や	②協・発	②評価	③タブ	④Google スライド

【ここがポイント！】

①「年間を通したやり取りの指導」
　１年間を通して，将来の夢や自分の好きなもの・人について話したり，Google スライドに書いたりしたことを活用して，ペアでのやり取りを行う。また，帯授業として週に１回以上 ICT を活用しながらやり取りを行うことで，会話を継続したり，多様な表現方法を用いたりする力が身に付く。

②「やり取りの練習の工夫」
　３人１組で順番に互いの会話を撮影し，録画した内容を確認しながらやり取りを行うことで，自己の発話について振り返ることができる。また，毎回ペアを変えて撮影し，振り返りを行うことで，新たな気付きを見出すことができる。撮影した動画は指導者へ提出し，指導者はそれを評価する。

【実践の目標】

　今まで学習してきた表現を活用して自分の好きなものや人についてペアでやり取りをすることができる。

【実際の場面】

１．単元の目標と評価基準について提示する
　１年間のまとめとして自分の好きなものや人について，ペアで２分間やり取りをすることやその評価基準について提示した。※下表参照

２．Google スライドに画像を貼り付ける
　Google スライドを活用して，今まで書きためてきた将来の夢や好きなもの・人について，振り返りながらイラストや画像を６枚選び貼り付けた。

生徒に提示した評価基準

	[illegible]	[illegible]	[illegible]
A	誤りの少ない英文で話している。 ex) I can play the guitar	自分の考えを考えしく述べたり，与えられた課題や相手の発言を効果的に活用したりしながら，自分の考えたことや感じたことなどを理由とともに述べたり，相手の考えを求めたり，話題を広げたり深めたりしながら対話を継続している。	自分の考えを考えしく述べたり，与えられた課題や相手の発言を効果的に活用したりしながら，自分の考えたことや感じたことなどを理由とともに述べたり，相手の考えを求めたり，話題を広げたり深めたりしながら対話を継続しようとしている。
B	誤りが一部あるが，コミュニケーションに支障のない程度の英文を用いて話すことができる。 ex) I can playing guitar	自分の考えたことや感じたことなどを理由とともに述べたり，相手の考えを求めたり，話題を広げたり深めたりしながら対話を継続している。	自分の考えたことや感じたことなどを理由とともに述べたり，相手の考えを求めたり，話題を広げたり深めたりしながら対話を継続しようとしている。
C	「B」を満たしていない。	「B」を満たしていない。	「B」を満たしていない。

３．やり取りの練習①
　帯学習として Google スライドを活用し，会話を継続させるための多様な表現方法を身に付けた。

４．やり取りの練習②
　各自が作成した Google スライドを活用し，やり取りをした。３人１組で順番に互いの会話を撮影し，その動画を確認することで，やり取りの改善を行った。

５．スピーキングテスト
　くじで決めたペアで２分間，お互いの好きなものや人についてイラストを見せ合いながら会話をした。
（評価のポイント）
条件１：読んだ英文（教科書）や相手が話したことを引用している。
条件２：自分の考えたことや感じたことなどを理由とともに述べている。
条件３：相手の考えを引き出したり，話題を広げたり深めたりしながら対話を継続している。

６．評価
　スピーキングテスト中は動画を撮影し，ALT が評価シートをもとに評価を行った。撮影した動画は各生徒が指導者に提出し，後日評価を行った。

北広島町立千代田中学校

【成果と課題】

【成果】
○１年間を通して，ICT をツールとして活用し，自分のことについて話したり，書いたりすることで，抵抗なく会話を始められるようになった。また，その内容に加筆したり修正したりするなど，日々の学習をより充実させることができた。
○ペアの会話を撮影し確認し合うことで，自分の発話を振り返り，より良い表現方法を考え，改善することができた。この単元を通して，「もっと英語で自分のことを話したい」「もっと相手に質問してみたい」という思いを抱く生徒が増えた。

【課題】
○ペアを替えながらやり取りの練習をすることで，多様な表現方法を身に付けることができたが，スピーキングテストでは即興的な会話につながらなかった。今後も手段と目的という視点を大切にしながら，ICT を効果的に活用していきたい。

目的と相手意識をもって話す活動とその評価
(NEW HORIZON English Course 3　Unit 5　A Legacy for Peace)

三原市立久井中学校

①話・や　②個・表　②評価　③Web カメ　④Zoom

【ここがポイント！】

①ALT とのやり取りを自分で動画撮影し，すぐに分析する。
　端末のカメラ機能を使い，ALT と自分のあこがれの人物について話している様子を動画撮影する。その後すぐに自分で動画を見直して分析すると同時に，ALT に評価してもらう。

②Zoom でカナダに住む元 ALT と話をする。
　授業中（日本は午前９時～11 時，カナダは午後７時～９時）に Zoom を使って元 ALT と話をする。話した内容に対して元 ALT からの質問を受け，その場で考えて答える。

【実践の目標】

　自分のあこがれの人物について ALT に知ってもらうために詳しい情報を加えたり質問に答えたりしながら話すことができる。

【実際の場面】

1．偉人や自分のあこがれの人について調べる
　教科書がガンディーを紹介しているので，クロムブックで国内外の偉人や自分の興味がある分野で活躍している人について調べて情報を集めた。

2．　情報を整理する
　紹介する人物を選び，どんな人物なのか，自分はどう思うかを整理した。

3．Zoom でカナダの元 ALT と話をする
　代表で数名が話したり質問に答えたりしたことで伝えたい意欲が高まった。また，どんな人物を選んで紹介するといいのかを考えた。

4．あこがれの人物についてまとめる
　関係代名詞を含む後置修飾を使って作文した。キーワードだけ見て話す練習をした。

5．ALT とやり取りをする
　別室で ALT と 1 対１でやり取りをする様子を動画撮影した。やり取りの制限時間２分以内で詳しい情報を加えたり質問に答えたりした。

6．分析，評価する
　撮影後すぐに自分で動画を見て分析した。動画は Google クラスルームに提出し，指導者が ALT と評価した。

【成果と課題】

【成果】
○Zoom でカナダにいる元 ALT と話せたことで，意欲が高まった。
○ALT とのやり取りを動画撮影してすぐ自分で振り返らせることで，客観的に分析したり新たな目標を決めたりすることができた。
○やり取りをした ALT と提出した動画を見た指導者とで「話すこと」について，同じ基準に基づき，複数の目で評価を行うことができた。

【課題】
○ALT と話す緊張感も加わり，質問されたことに答えたり新たな説明をしたりする即興的なやり取りが十分にできていなかった。活動時間を確保したり表現を増やしたりしていきたい。

タブレットを活用し，ALT へ因北中学校の校則を紹介する言語活動
（New Horizon English Course 2　Unit 4 Homestay in the United States）

①話・発　①書く　②一斉　③タブ　③Web カメ

【ここがポイント！】

「一人一台端末を活用したスピーチ動画と相互評価」
Unit 4 Homestay in the United States
このユニットで，生徒は助動詞 have to, must,動名詞を学ぶ。課題設定を「ALT に因北中学校の校則について，分かりやすく説明すること」とし，授業で因北中学校の校則を整理し，英語で説明する内容を考えた後，課題としてタブレットで校則を説明するスピーチ動画を作成し，Classroom に提出させる取組を行う。動画はルーブリックに基づいて作成し，その後，授業でお互いのスピーチ動画を評価し合う活動を実施する。

【実践の目標】

因北中学校の校則について，ALT の先生に分かりやすく紹介することができる（本ユニットでは，生徒同士で動画やスピーチの評価を行う）。

【実際の場面】

1．課題を設定する
ALT の Oscar 先生から「日本の中学校の校則はどのようなものがあるのか教えて欲しい」という内容のビデオレターが届き，生徒は have to や must を使って，分かりやすく伝えるために，どうすればよいかを考えた。分からない表現や語句は，タブレットを活用して調べ，言語活動に活かした。

2．課題としてスピーチ動画を作成する
Oscar 先生に紹介したい校則について，タブレットを持ち帰らせ，家庭学習としてスピーチ動画を作成させた。作成した動画は Classroom に提出させた。

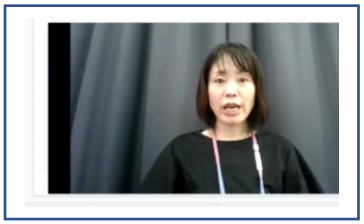
3．お互いのスピーチ動画を評価し合う
Classroom に提出したスピーチ動画をグループで見合い，ルーブリックをもとにお互いに評価し合った。また，動画を見た後の感想等も英語で伝える言語活動を行った。

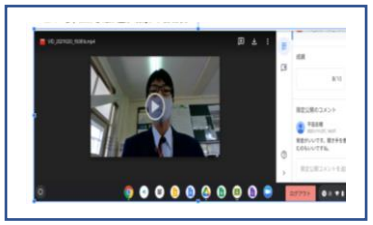
4．動画の評価をふまえたスピーチ発表をする
ルーブリックに基づいてスピーチの練習をし，動画と同様にスピーチもグループ内で評価し合った。また，オーディエンスとしてのスピーチを聞く態度も自己評価させた。

5．モデルスピーチ動画を見て，よりよいスピーチについて考えさせる。
モデルスピーチの動画を見て，自分たちのスピーチとどこが違うのかを考えさせた。この動画を Classroom 内に貼り付けることで，生徒たちは何度も動画を見返し，よりよいスピーチについて考え，練習することができた。

6．スピーチを改善し，スピーチを撮影する。その動画を評価する。
自分で改善点を見つけ，よりよいスピーチ動画を撮影し，Classroom に提出させた。提出動画は教員がルーブリックに基づき評価し，返却した。

尾道市立因北中学校





【成果と課題】

【成果】
○動画を撮影することで，生徒は何度も練習・撮影を繰り返した。そのことにより，言語活動の質及び量が向上した。
○自分のスピーチ動画を何度も見ることで，自分の良い点や課題が分かり，客観的に自分を見ることができた。
○何度も動画を見ることができ，個に応じた指導をすることができた。
【課題】
○家庭で最初に撮影したスピーチ動画が最もよかったと言う生徒もいた。クラス内の撮影だと，緊張したり周りの目が気になったりして，力が発揮できない傾向があった。どのような状況であっても，相手に分かりやすく，自分の意見や考えを伝える力を育てていく必要がある。

Chromebook を活用した「３年間の思い出」のスピーチと評価
（New Horizon English Course 3　Let's Listen 6 中学校生活の思い出）

府中市立第一中学校

①話・発　②協・整　②評価　③タブ　④ロイロノート

【ここがポイント！】

「ロイロノートの活用」
①「３年間の思い出」をスピーチするために，ペアで共有ノートを活用し，お互いに３年間の思い出を引き出すための質問を１０問作成して，質問に答え合う。その質問をヒントに，スピーチする３年間の思い出の内容を考え，自分のスピーチのメモを作る。
②ペアの共有ノートに自分のスピーチを録音する。お互いに録音したものを聞き，分かりにくいところなどを共有して改善していく。

【実践の目標】

「３年間の思い出」について，自分の経験や具体例，自分の考えを添えて ALT に分かりやすく伝えることができる。

【実際の場面】

１．相手への質問を作成する
３年間の思い出を引き出すために，お互いに１０問の質問を考えてペアのシートに記入する。

２．質問に答える
お互いが考えた質問に理由を添えて答える。３年間の既習事項を用いて答える。

３．クラスで共有する
質問事項や答え方について，既習事項を用いて分かりやすく表現しているものをテレビ画面に映し出し，クラス全体で共有する。

４．スピーチメモを作成する
ペアのシートから自分のシートに移り，自分のスピーチのメモを作成する。スピーチメモには自分の体験や具体例及び考えや理由などを添える。

５．ペアでスピーチの練習をする
メモを見ながらペアの共有ノートにスピーチを録音し，相手に聞いてもらう。自分でも聞いて振り返りをするとともに，相互評価によって改善点を出し合い，スピーチの質を向上させる。

６．ペアを変えて練習する
最初のペアでのアドバイスを参考にして，ペアを変えて別の人との共有ノートにスピーチを録音する。その後，お互いに振り返りや評価を行い，スピーチをより分かりやすいものに改善する。

７．評価を行う
スピーチメモと録音したものを提出させ，評価を行う。

【成果と課題】

【成果】
○共有ノートを活用することで，席が離れている生徒とのやりとりや音声をお互いに聞き合うことができ，質の高い練習をすることができた。
○英語の発音に自信がない生徒も録音し直して提出できることで意欲的に取り組むことができた。

【課題】
○Google 翻訳などの使用場面を考えて活用していきたい。
○書くこととのバランスを考えて ICT を活用していきたい。

単元を通した ICT の効果的な活用

（SUNSHINE ENGLISH COURSE 3 PROGRAM4 My Best Memories of Tokyo 2020）

① 話・や	②個・表	②評価	③タブ	④Google スライド

【ここがポイント！】

①「ICT を活用してコミュニケーションの必然性をもたせる」
単元を貫く課題設定の際，ALT からのビデオレターを提示する。個のニーズに応じて繰り返し聞き取る活動を通して，生徒一人一人が視覚的に課題を共有し，内容をしっかりと捉えることができるように工夫する。

②「ICT を活用した言語活動の『量の充実』」
端末を使って「聞くこと」「話すこと」を繰り返すことを通して，生徒一人一人の言語活動の量を増やすことができるように工夫する。

③「ICT を活用した言語活動の『質の向上』」
様々な表現方法を調べ，練習し，自分のものにできるようにする。また，やり取りの様子を録画し，自己評価・自己調整する機会を設け，発話内容をブラッシュアップできるように工夫する。

【実践の目標】

東京オリンピック・パラリンピックで印象に残った競技や選手について，事実と自分の考えや気持ちなどを整理して ALT に分かりやすく伝えたり，ALT からの質問に答えたりすることができる。

【実際の場面】

◆単元を貫く本質的な問い◆
自分の考えをより分かりやすく伝えるためには，どのような表現や内容にしたらよいだろう？

1. 課題の把握・場面設定を工夫する【ビデオレター（Windows Media Player）】
ビデオレターを通して，東京オリンピック・パラリンピックで印象に残った競技や選手について生徒から教えてもらいたいという ALT の思いを受け取った。動画は字幕なし・英語字幕・日英字幕を個に応じて選択できるように工夫した。

2. 情報を収集する（個人）【Google などの検索機能】
Google などの検索機能を活用し，オリンピック・パラリンピックで印象に残った競技や選手について，自分が伝えたい情報を収集した。

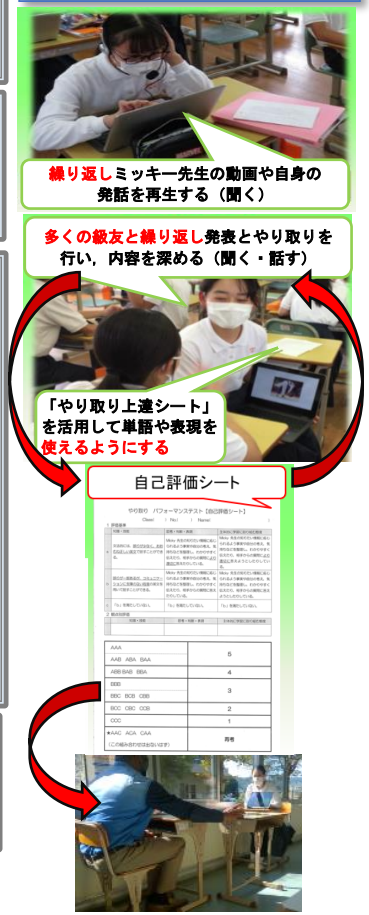
3. 伝えたい情報を整理して，スライドに画像をまとめる【Google スライド】
端末の画像検索機能を活用して，発表内容にあった画像を探し，Google スライド内に貼り付けた。

4. 未習の単語や表現を調べ，発音を繰り返し練習する【Google 翻訳】
辞書検索サイトを活用して，発表内容にあった単語や表現方法，発音を調べ，繰り返し練習した。

5. ①オリンピック・パラリンピックで印象に残った競技や選手について説明し合い，その内容に基づいて即興でやり取りし合う（ペア）【Google スライド】
②これまでのやり取りを踏まえ，使いたかった表現方法について知り，学級全体で共有する（全体）
③自分たちのやり取りの様子を動画で確認し，自己評価・自己調整する（個人・ペア）【端末のカメラ機能】
指導者は，やり取りや発表の質が上がるように，生徒がうまく表現できなかった部分を把握し，フィードバックした。この活動をペアの組み合わせを替えながら繰り返し行った。また，互いのやり取りの様子を撮影し，動画を個人・ペアで見直し，評価規準に沿って自己評価・自己調整できるようにして，単元末のパフォーマンステストに生かした。

6. パフォーマンステストでの様子を録画し，学習評価に活用する【端末のカメラ機能】【Google スライド】
実際に ALT と行ったパフォーマンステストの様子を録画し，やり取りを評価する。

世羅町立世羅中学校



【成果と課題】

【成果】
○ICT の活用を通して，より主体的に情報収集と整理・分析を行い，発信しようとする生徒が増えた。
○単元の中で端末を使って自身の発話を確認するなどの自己調整する機会を設けたことにより，多くの生徒の発話に質的向上が見られた。
○コミュニケーションの目的，場面や状況に応じて必要な単語や表現を調べさせたり，相手意識をもたせて情報を整理して表現させたりするなど，ICT の利点を生かし，言語活動の質の向上を図ることができた。

【課題】
○自己調整する機会を増やすために，端末を持ち帰り，各自で動画を見て振り返ったり，調べ学習を行ったりすることが家庭でも可能になれば，授業で実践できる言語活動の量・質も充実・向上させることができる。

Google スライドやタブレットを活用して，ALT へおすすめのものを紹介するまでの一連の活動と評価
（NEW CROWN English Series 3　Lesson 3　The Story of Sadako）

神石高原町立神石高原中学校

①話・発　①書く　②協・発　③タブ　④Google スライド

【ここがポイント！】

「既習事項を活用して，おすすめの日本の本・絵画・映画を ALT に伝わるように紹介しよう。」
本校に勤務している ALT に対して，各生徒が発表するテーマを決め，プレゼンテーションをする活動をする。
［作成時の約束事の設定］
・翻訳ソフトは活用しない。知らない単語等は紙の辞書（電子辞書）を使って調べる。（教科書・ノートの活用 OK）
・ALT の助けを借りずに，Google スライドやタブレットのビデオ録画機能を用いて紹介文を交流し合い，紹介文の質を高める。（ALT には発表の日まで秘密。）
［話すこと（やりとり）の言語活動の設定］
・発表後は，ALT からの質問場面を設定した。簡単な語句や文を用いて即興で伝えたり，答えたりすることで，様々な会話技術や表現に慣れるようにした。

【実践の目標】

「Lesson3 The Story of Sadako Use read おすすめの本を紹介しよう」
既習事項を活用して，日本の本・映画等を，おすすめの理由やあらすじを含めて紹介できる。

【実際の場面】

①パフォーマンス課題を提示する。
主体的に学習に取り組む態度を育成するため，パフォーマンス課題として，上記の課題を提示した。本単元ではグループ課題ではなく個人課題として取り組むことを伝えた。生徒は各自でおすすめするテーマを検討・決定した。

②おすすめの日本の本・絵画・映画について，まとまりのある紹介文を書く。
紹介文のモデル原稿やモデル発表を確認して，その構成や紹介文の書き方をイメージした後に，内容を考え，英文作成を行った。

③作成途中の紹介文の交流をする。
完成前に Google スライドを用いて，仲間の紹介文を見合って，互いの紹介文を推敲した。

④ペアで発表練習をする。
タブレットのビデオ録画機能を用いて，ペアで発表練習を行った。発表内容，発表時の声量・発音・スピード・視線等の視点で仲間の発表を見るようにした。

⑤録画した発表の様子を再生し，相互評価をする。
タブレットで発表の録画・再生をした。ペアで発表の様子を確認し，良い点・改善点を交流・把握して，発表の仕方を改善したり，内容を練り直したりした。

⑥ALT におすすめの本・絵画・映画を紹介する。
実際に本やポスター等も準備して，発表した。発表後は，ALT から発表内容に関わる質問があり，生徒は，簡単な文や語句を用いて答えた。

⑦評価をする。
ALT やＪＴＥの評価だけでなく，他者評価や仲間の発表から改善点や吸収すべき点に気付いた。

【成果と課題】

【成果】
○ タブレットのビデオ録画・再生機能を用いてペアで発表練習を行った際に，視覚的に自分達で振り返ることができ，発表内容や発表の仕方の改善につなげられた。
○ Google スライドを用いることで，仲間が作成している紹介文を自席で見ることができ，自分の紹介文の参考にするなど，内容の質の向上につながった。
【課題】
○ 発表後に ALT からの質問に即興的に答える場面を設定した。「質問は聞き取れたけど，言いたいことが英語で上手く言えなかった」という生徒が多数いた。帯活動などでやり取りの活動をさらに取り入れ，既習表現の定着を図る必要がある。

ロイロノートを活用した「話すこと［発表］」と「書くこと」の技能を高める取組
（Here We Go!　ENGLISH COURSE　2　Unit4 Tour in New York City）

三次市立八次中学校

①話・発　①書く　②個・学　②評価　③タブ　④ロイロノート

④Google クラスルーム　④Google ドキュメント　④Zoom

【ここがポイント！】

①「Zoom でスモールトーク」
　Zoom のブレイクアウトルームの機能を活用し，生徒が移動することなく瞬時にペアを変え，やり取りを行う。

②「ロイロノートの付箋機能を活用」
　ロイロノートの付箋機能を活用し，自分が ALT に紹介したい場所の情報を整理する。ロイロノートを活用することで，付箋の位置を自由に動かすことができ，思考整理がしやすくなる。また，その付箋をもとに，相手に伝える練習をすることで，話すこと（やり取り）の力が身に付く。

【実践の目標】

　初来日する ALT の家族のニーズに合った三次紹介をするために，家族の情報や自分の考えを踏まえたまとまりのある英文を書くことができる。

【実際の場面】

1．Zoom でスモールトーク【帯活動】
　Zoom のブレイクアウトルームを活用し，生徒が移動することなく瞬時にペアを変えることができ，より多くの生徒とやり取りができた。

2．ALT にインタビューをし，ALT の家族の情報収集をする
　ALT の家族がどのようなことが好きで，どのようなことに興味があるのかを聞き，ロイロノートの付箋にメモをした。

3．情報整理をする
　前時で得た ALT の家族の情報をもとに，どの場所を紹介するか決め，その場所の情報をロイロノートの付箋にメモをし，情報整理した。

4．ペアでやり取りする
　生徒役と ALT 役に分かれ，ロイロノートの付箋を基にやり取りを行った。ALT 役は生徒役の内容に対して質問をする。その質問の答えをさらにロイロノートの付箋に追加した。その後，再び個人練習をした。

5．ALT に紹介をする
　生徒はロイロノートの付箋のみをもとに，ALT に三次紹介をした。

6．パンフレットを作成する
　ALT に伝えた内容を基に，三次紹介のパンフレットを Google ドキュメントで作成し，Google クラスルームに提出した。

7．相互チェックをする
　グループでパンフレットの原稿チェックをし，文法ミスなどを確認した。完成したものを Google クラスルームに提出した。

【成果と課題】

【成果】
○ロイロノートの付箋は自分が好きなところに自由に動かすことができ，思考整理がとてもしやすく，話すこと（発表）の技能を高める有効な手立てとなった。
○生徒たちは端末操作に慣れ，スムーズに使えることができるようになった。
○成果物をデータで提出することで，添削がしやすくなった。
○タブレットを活用することで，時間短縮でき，その分言語活動の時間を十分確保することができた。

【課題】
○タブレット操作には慣れたものの，タイピングが苦手な生徒がおり，ドキュメントを作成するのに時間がかかる生徒がいる。必要に応じてノートに書かせるなど，手立てが必要である。

タブレットを活用したプレゼン発表までの一連の活動と学習評価
（SUNSHINE ENGLISH COURSE 2 Our Project 4 「夢の旅行」を企画しよう）

庄原市立東城中学校

①話・発　②協・発　②評価　③タブ　④Google ジャムボード

【ここがポイント！】

今回の活動のポイントは２つ。

①「動画撮影による自己評価と動画の提出」～十分な発話量の確保～

生徒は作成したメモを基に，カメラに向かって発表の練習をする。自分たちの発表の様子がＡＬＴの先生の目にどのように映るのか，客観的な視点から振り返りができるため，英語の発音や声量のみならず，聞き手に配慮したより良い発表にするため，提示する資料の見え方や立ち姿などに関する振り返りも見られる。その後，撮影した動画の中から１つ選び Google クラスルームへ提出し，教師はそれを評価の際に活用する。

②「発表内容の推敲，改善」～Google ジャムボードの有効活用～

生徒はＡＬＴにオススメの旅行先を伝えるため，インターネットでＡＬＴの希望に沿う旅行地を決定し，そこで出来ることなどを Google ジャムボードに付箋で貼り付ける。また，発表の練習の様子を撮影した動画を見直す際にも，Google ジャムボードを用いて各グループでの振り返りを可視化し，良かった点や改善点などをまとめる。付箋を書き直す，移動する，グルーピングするなどの Google ジャムボードを用いた活動を通して，発表内容の改善につなげることができる。

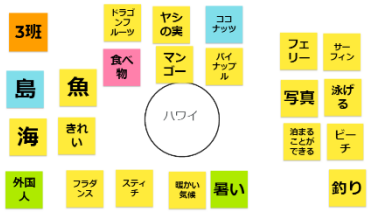
【実践の目標】

聞き手に分かりやすいプレゼンをするために必要なことは何か考え，気付き，ＡＬＴが喜んでくれる発表をすることができる。

【実際の場面】

１．オススメする旅行先の決定

ＡＬＴからの，「暖かい国で，海で泳ぐことができ，南国の果物を楽しめる場所に行きたい」というリクエストを受け，生徒はそれらを満たす国を調べ，Google ジャムボードに書き込んだ。テーマごとにグルーピングし，伝える内容を精選した。

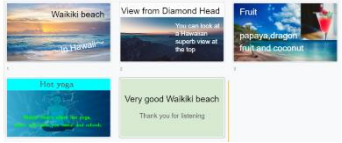


２．発表内容の推敲

生徒はオススメする旅行先について調べた内容から，より分かりやすい発表にするために，発表する内容を絞ったり，順番を考えたりした。学習した事項を活用しながら，その国についての紹介文を考えた。

３．発表資料の作成

Google スライドを用いて，その国の魅力を伝える資料を作成した。生徒は担当するスライドを，意欲をもって作成することができた。聞き手のことを考え，見えやすさを考慮し，サイズやレイアウトを考えたり，文字の色を調節したり工夫をした。

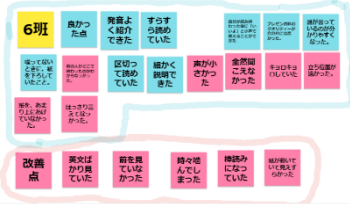


４．発表の練習

作成したスライド資料を示しながら，グループで何度か練習をした後，動画を撮影しながら，カメラに向けて発表練習をした。撮影した動画をグループごとに振り返り，気付きを Google ジャムボードに書き込んだ。それらを基に何度も撮り直し，改善点を少しずつ修正した。

５．提出された動画の採点・評価

撮影した動画の中から最も良かったものを Google クラスルームに提出し，教師は評価の際に活用した。



【成果と課題】

【成果】

○ＡＬＴからの依頼に応えるために，旅行先の決定からスライド資料の作成，発表まで，生徒は意欲をもって取り組むことができた。

○動画を撮影することで，より良いものを目指そうと何度も撮り直し，発話量の向上につながった。

【課題】

○発表内容を Google 翻訳に頼りすぎる生徒もいるため，タブレットを活用する場面と既習事項を活用して表現する場面を意図的に設定する必要がある。

○発表内容についての深まりをもたせるために，生徒同士でその国についての詳しい説明を求めたり，教師から意図的に働きかけたりする必要がある。